



言語、道具、技術と共に展開した人類の歴史を、
ひとつのコスモロジーとして捉え直し、
未来を構想する

Schedule:

概要

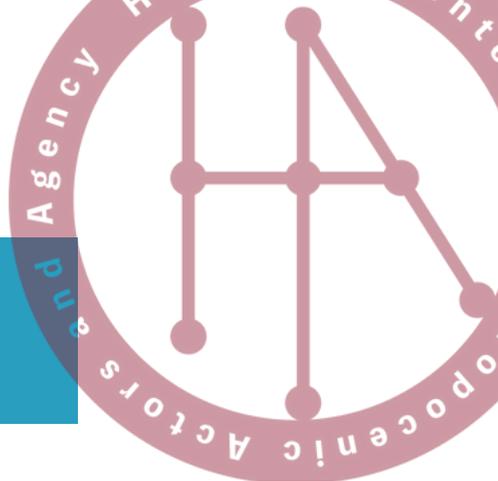
名古屋大学大学院人文学研究科附属人文知共創センター（Humanity Center for Anthropocenic Actors and Agency）は、近未来の世界を見据えた新たな価値の創造に人文学がどのように貢献しうるかを探求するため、2022年11月1日に設立されました。

本センターは、日本学術振興会助成「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」学術知共創プログラムに採択された研究課題「人間・社会・自然の来歴と未来:「人新世」における人間性の根本を問う」（Anthropocenic Actors and Agency in Humanity, Society and Nature: 略称AAAプロジェクト）を推進することに活動の軸をおいています。研究開始と共に、センターに対し学内外からみなさまの温かいサポートを受け、おかげさまで本プロジェクトは、2024年度の間評価で高評価をいただきました。研究期間後半に入り、みなさまと共にいっそうの共進化をめざします。



2022.12 人文知共創センター除幕式





挨拶



研究課題「人間・自然・社会の来歴と未来：「人新世」における人間性の根本を問う」(AAAプロジェクト)の採択を受け、名古屋大学人文学研究科に人文知共創センターが設置されてから早くも二年半が経ちました。センター設置以降、本プロジェクトは人文学系では珍しい大規模プロジェクトとして注目を集め、各所からお声がけをいただき、プロジェクトとセンターの趣旨と目的をご説明してきました。並行して、プロジェクトの実働部隊として五つの研究班が動き始めました。メンバーの専門分野も世代も多彩で、どの研究班にも人文系、自然科学系が入っていることにより、本プロジェクトはメンバー全員にとって前例のない挑戦となっています。

「何の役に立つのか」という問いは、しばらく前まで人文学に対する批判としてしばしば耳にしましたが、いまではこの問いは学問全体、それどころか、大学そのものにまで投げかけられるようになりました。19世紀に大学制度が整備されて以降、学問は細分化の道をたどりましたが、それは同時に実証主義的傾向が強まった時期でもありました。実証主義が極度に推し進められるたびに反動と揺り戻しが繰り返され、その振幅のなかで人文学は、最も数値化に向かない部分を引き受け続けてきました。人類の歴史を振り返るならば、人間の営みは常にテクノロジーの開発と共にあり、科学技術と共に人間の生活環境は刻々と変わり、人間自身もまた適応的に変化してきました。今、人文学をも含め、学術知のありようを問い直すとする今日の動きがこれまでとは全く違った様相を帯びているとするならば、それは、人工知能の飛躍的な展開により「知」のありようのみならず、人間のありようまでが根本から変容するということが今まさに起こりつつあるのかもしれないという問いがあるからではないでしょうか。そしてこの問いを真摯に受け止めるところに、「30年、50年後の世界を見据えた、地球規模での人類社会における価値の見直しと創造」を謳う学術知共創プログラムの狙いがあるのだと思います。

専門知をおろそかにすれば、学自体が衰退しかねない。かといって、専門知を羅列するだけでは何も生まれません。精緻に発展した専門知が有機的に関連しあい創発しあうために、それら専門知を繋ぎ、編むという役割の担い手が必要です。この担い手に期待されるのは、もはや窮屈となってしまった枠組みを解体し組み替える作業であり、それによりいつか総合的な知の創発を促す一助となることです。

人間は、自らが開発するテクノロジーによって拓かれる予測しがたい未来社会を、この地球に住まうすべての生き物たちと共に生きてゆかなくてはなりません。こうした状況下にあって望まれるのは、〈他者や自然との柔らかな均衡〉です。誰もが、何によっても過度に縛られず、息苦しさを感しながらも窒息することなく、遠くの未来をまなざすことができる世界を構築していくために、豊穡な人文知を更新して諸科学を繋ぎ、統合的な知の営みを共創する場として、本センターは活動しています。

中村靖子

センター長・AAAプロジェクト代表

活動（2024年度）

<2024.5.24-31 ハワイパネル 東西哲学会議>

東西哲学会議（ハワイ大学）では、「Evolving Humanity: Pain and Healing in the AI Era」と題した共同パネルにおいて、中村靖子・鄭弯弯（第1班）、岩崎陽一（第2班）、立花幸司（第2班）、和泉悠（第3班）、大平英樹（第5班）が報告しました。



<2024.6.18 第3班の第6回班別会議>

2024年6月18日、オンラインにて第3班の第6回班別会議が開催されました。南谷奉良（第3班）、池田慎之介（第3班）、和泉悠（第3班）、宮澤和貴（第3班）、中村靖子（第1班）、大平英樹（第5班）、鄭弯弯（第1班）、平井尚生（第3班RA）、肖軼群（京都大学）、ソニア・ザン（ニュースクール大学）が参加しました。本班別会議では各班員の進捗報告に加えて、宮澤の在籍する大阪大学で開催するロボット視察研究会についての打ち合わせ、また叢書刊行へ向けた10月実施の若手研究発表会の打ち合わせが行われました。

AAA プロジェクト
第4回理論班会議

2024年度4回目
AAA

開催日時
7/6(土)

名古屋大学人文知共創センター1室

スケジュール

- 13:15-13:30 中村靖子
- 13:30-13:45 鄭弯弯
- 13:45-14:00 鈴木龍聖
- 14:00-14:15 大平英樹
- 14:15-14:30 金徳行
- 14:30-14:45 田村彰樹
- 14:45-15:00 中村靖子
- 15:00-15:15 休憩
- 15:15-17:15 中間評価のための報告書作成についての打ち合わせ
- 18:00-20:00 情報交流会・研究交流会

名古屋大学 人文知共創センター TEL:052-789-5996 https://a3nara.org

<2024.7.6 第1班の第4回班別会議>

2024年7月6日、名古屋大学で第4回理論班会議が開催され、理論班のメンバーが全員参加し、フロイトのテキスト分析、語彙親密度による難易度推定、言語進化の生態ゲーム、遅れ微分方程式によるリズムモデル、技術経済ネットワークに基づくANTの応用、AIと民主主義、都市研究とANTの接続など多様な報告が行われました。質疑では、量的・質的研究の関係、人間以外のアクターの役割、平等性の再定義などが議論され、学際的視点から理論の深化が図られました。

<2024.7.27 第3回ロボット視察研究会—ロボット・人工物の主体化・身体性をめぐって>

2024年7月27日に大阪大学にて、第3班企画のロボット視察研究会「第三回ロボット視察研究会—ロボット・人工物の主体化・身体性をめぐって」が開催されました。本研究会では、大阪大学長井研究室にてロボット視察を行った後、高見滉平（大阪大学）、福田聡也（大阪大学）、池田慎之介（第3班）、肖軼群（京都大学）、宮澤和貴（第3班）合計5件の発表が行われました。

若手研究者の分野融合的研究交流：ロボット視察研究会

2022年から2024年8月までに3回実施
班を超えてロボット・AIを軸にした多様な議論を継続

研究会
ロボット視察

感情、社会、価値、エージェンシー、部品、対話、動き、見る、触る、温度

ロボットと感情、AIアライメントと人工知能、ロボット・人工物の主体化、文学の中のロボット、ヒトとロボットのアナロジー、対話システムと心の関わり

活動 (2024年度)

<2024.8.1-8 ローマパネル 世界哲学会議>



世界哲学会議（ローマ大学）での共同パネル「Humanity Revisited: Navigating a World Shaped by AI」では、人間とAIの相互作用から生じる倫理的な問題を主に議論した。立花幸司（第2班：古代ギリシャ哲学）は、AIとの対比において人間の独自の特性を考察し、和泉悠（第3班：言語哲学）はAIに対する人間の差別的な言語使用を手がかりに、「非人間化」の概念を分析し、人間とAIの相互作用の潜在的な有害な側面を論じました。

岩崎陽一（第2班：インド哲学）は、仏教の語義論の視点から、AIが知的な存在として自己を提示する仕組みについて問題提起をしました。Mario VERDICCHIO（ベルガモ大学：技術哲学）は、AIの利用リスクに光を当て、AIを技術と社会の共生産物として解釈しました。STS（科学、技術、社会）の背景を持つソニア・ザン（ニュースクール大学）は、ロボット開発のケーススタディから洞察を提供し、哲学と技術の関係の再評価を促しました。

<2024.8.19-20 第5回研究集会>

2024年は当プロジェクトも、期間の折り返しを迎えています。これまで数々の課題を洗い出し、検討を進めてきました。大平英樹（第5班）が、「後半期間は、これまでの成果を踏まえて、より戦略的にプロジェクトを展開していきたい」と話すように、今後さらに加速し、新たな流れを作るフェーズへ突入します。2024年8月19日、20日に開催された全体研究集会では、各班の話題提供と活発な議論に加え、叢書の出版や金沢21世紀美術館との共催による国際シンポジウムなど具体的な成果発表の構想についても議論されました。また、劉雪琴（下関市立大学）をゲストに招いて、他の執筆予定者なども報告し、叢書第1巻の内容について議論しました。

Anthropocene Actors and Agency in Humanity, Society, and Nature | 人間・社会・自然の未来と未来 | 人間性における人間性の根本を問う | 二〇二四 AAA

AAAプロジェクト第5回研究集会
2024.8.19(月)・20(火)
会場：名古屋大学東山キャンパス文学部本館・大会議室110号室

2024.8.19(月)

セッション1: AAA叢書第1巻: テキストアナリティクス (司会: 鄭雪琴, 名大)	13:00-13:20 杉本義隆 (名大)	14:00-14:20 山本哲也 (徳大)
13:20-13:40 伊東陽史 (東京外大)	14:20-14:40 野澤望 (下関市立大)	14:40-15:30 討論
15:30-16:00 休憩		
セッション2: 叢書第2巻: 生成AIとロボット (司会: 南谷孝典, 京大)	16:00-16:20 池田博之介 (金大)	16:40-17:00 高橋英之 (阪大)
16:20-16:40 佐藤和典 (阪大)	17:00-17:50 討論	
18:30-21:00 情報交換会&研究交流		

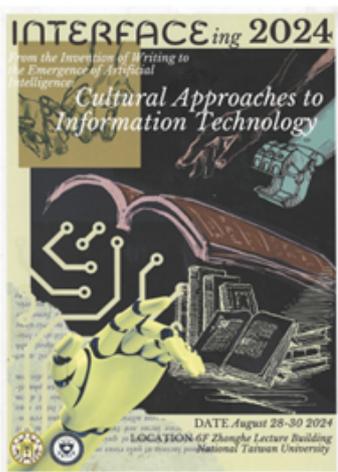
2024.8.20(火)

セッション3: 自然とアート (司会: 岩崎陽一, 名大)	10:00-10:20 金塚行 (北陸大)	11:00-11:20 森元康 (長大)
10:20-10:40 武田直也 (京大)	11:20-12:00 討論	
10:40-11:00 休憩		
セッション4: セクシュアリティ (司会: 黒山定規, 京大)	13:30-13:50 黒山定規 (京大)	14:30-14:50 討論
13:50-14:10 藤岡フワコ (マリアンエル(明徳大))	14:50-15:20 休憩	16:00-16:20 中村靖子 (名大)
14:10-14:30 立木美江 (京大)		16:20-16:40 田村慧香 (名大)
		16:40-17:00 平田暁 (南山大)
		17:00-17:20 討論

名古屋大学人文科学研究科プロジェクト「連続ワークショップ: データに基づいた統計・機械学習モデルの基礎と応用」共催
問い合わせ先: 人文知共創センター zheng@nagoya-u.jp https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/aaa/



<2024.8.28-30 台湾パネル INTEFACEing 2024>



INTERFACEing2024 (台湾国立大学) にて、鄭弯弯 (第1班)、中村靖子 (第1班) および葉柳和則 (長崎大学) が「言語モデルを用いたナラティブの感情分析」と題するパネルを企画・報告しました。

本パネルでは、大規模言語モデル (LLM) を用いた感情分析の可能性と課題を、文学作品や政策スピーチに見られる感情の複雑さに焦点を当て、単なる「ポジティブ/ネガティブ」の二分法では捉えきれない、潜在的かつ多層的な感情表現の分析に挑みました。さらに、感情分析にとどまらず、文書内のトピックの変遷、テキスト理解、主観性の表現などと感情データを組み合わせた解釈についても、議論が交わされました。

質疑応答では、感情と意味、モデルと伝統的人文学解釈の関係をめぐる活発な意見交換が展開され、機械学習による解釈可能性と人文学的読解との接続の可能性について、多くの示唆が得られました。本パネルでのすべての報告は、その後さらに考察を深め、叢書第1巻に収録されました。



人文知共創センター
Humanity Center for Anthropocene Actors and Agency

INTERFACEing2024 Session 9A 14:00~15:30

Narrative Sentiment Analysis Using Language Models

長崎大学 Kazunori Hayanagi, Nagasaki University
名古屋大学 Ysuko Nakamura, Nagoya University
名大 鄭弯弯 Wanwan Zheng, Nagoya University

活動 (2024年度)

<2024.9.7 日本心理学会第88回大会企画シンポジウム>

2024年9月7日 9:20~11:00
日本心理学会第88回大会

未来の共生者

ロボット、ゾンビ、
バーチャルキャラクターとの
インタラクションがもたらす
心理的及び社会的影響の探索



福田 安佐子 (国際ファッション専門学校)
高橋 英之 (大阪大学)
山本 哲也 (徳島大学)

人間は、来たるべき未来を、
誰と (何と) ともに生きるのか？
そのとき、その選択権は
人間にあるのだろうか？



高橋 英之
(ロボット担当！)



山本 哲也
(いろいろ担当！)

<2024.11.18 名古屋大学×金沢21世紀美術館共催シンポジウム>



名古屋大学 × 金沢21世紀美術館 共催シンポジウム
すべてのものとダンスを踊ってー共感のエコロジー

2024.11.4(月) 10:00-13:00 名古屋大学 東山キャンパス 坂田・平田ホール
November 4, 2024 (Monday) 10:00 AM - 1:00 PM Sakata Hirata Hall, Higashi-yama Campus, Nagoya University

2014年11月4日、名古屋大学にて、金沢21世紀美術館との共催で国際シンポジウム「すべてのものとダンスを踊って-共感のエコロジー」を開催しました(於：東山キャンパス坂田・平田ホール)。

本シンポジウムは、11月2日より同美術館で始まった同タイトルの展示会にあわせて開催されたもので、パリ社会科学高等研究院 (EHESS) のエマヌエーレ・コッチャの基調講演に続き、長谷川祐子や、キュレーターの本橋仁、本プロジェクトのメンバーからは岩崎陽一 (第2班)、高橋英之 (第2班)、伊東剛史 (第2班)、池野絢子 (第5班)、山本哲也 (第5班) の5人が登壇し、各専門からの問題提起を行いました。



<2024.11.30 第1回創発知研究会>

人間・社会・自然の未来と未来—「人新世」における人間性の根本を問う—
第1回創発知研究会
Aural: Emerging Assembly
11/30 (土)
京都大学文学研究科部構内
文系学部校舎1F
多目的交流スペース「ぶんこも」

プログラム

13:00 - 13:10 開会の挨拶と世話人紹介
世話人 南谷 奉良 (京大)、金信行 (北陸大)、鄭弯弯 (京大)、鳥山定嗣 (京大)

13:10 - 14:10 第一研究発表
14:10 - 14:20 休憩

14:20 - 15:20 第二研究発表
15:20 - 15:30 休憩

15:30 - 16:30 第三研究発表
16:30 - 17:20 全体質疑応答セッション

17:20 - 17:30 閉会の挨拶

18:00 - 20:00 各研究者間の質疑及び研究交流会

登壇者 (五十音順、敬称略): 佐野 祥子 (京大)、東原 祥子 (京大)、大平 健太 (京大)、大平 徹 (京大)、菊川 恭輔 (金沢大)、藤田 洋平 (京大)、システムエンジニア 平井 高生 (京大)、高見 健平 (京大)、高見 健平 (京大)、田中 基樹 (京大)、野村 哲樹 (京大)、高橋 雅也 (京大)、平井 高生 (京大)、藤田 安太郎 (福岡アソシエーション専門学校)、藤田 聡也 (京大)

問い合わせ先: 人文知共創センター <https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/psaa/>

2024年11月30日 (土) に第1回創発知研究会を京都大学 (@文学研究科部構内 文系学部校舎1F 多目的交流スペース「ぶんこも」) で開催しました。

若手研究者のネットワーク形成と異分野間研究の可能性を模索する第一回では、南谷奉良 (第3班)、金信行 (第1班)、鄭弯弯 (第1班)、鳥山定嗣 (第4班) が世話人を務め、15名の研究者の専門分野とその分野を学ぶための参考文献を紹介し、質疑応答を行いました。



今回の研究会では英米文学、現代アート、表象文化、インド哲学、哲学思想史、感情心理学、数学、機械学習、人工生命といった多様なアプローチが紹介されました。無理に領域を重ねるのではなく、多様な異分野の研究を知ることからはじめました。

<2024.12.7 第1班の第5回班別会議>

人間・社会・自然の未来と未来—「人新世」における人間性の根本を問う—
AAAプロジェクト
第5回理論班会議
12/7 (土)
文学部本館402室

スケジュール

13:30 - 13:50 中村 靖子
13:50 - 14:10 田村 哲樹
14:10 - 14:30 鈴木 麗瑠
14:30 - 14:45 休憩
14:45 - 15:05 大平 健太・大平 徹
15:05 - 15:25 金信行
15:25 - 15:45 鄭弯弯
15:45 - 16:00 休憩
16:00 - 16:30 平田 周
16:30 - 17:00 大平 英樹
18:00 - 20:00 情報交流会・研究交流会

開催日時:
12月7日 (土)
文学部本館402室

2024年12月7日、第5回理論班会議が人文知共創センターで開催されました。

中村靖子 (第1班) はフロイトのテキスト分析の進捗を報告し、田村哲樹 (第1班) は非人間的的存在を含む政治の可能性について、アクターネットワーク (ANT) 理論から考察を行いました。鈴木麗瑠 (第1班) は社会的ニッチ構築と行動傾向の分析を発表しました。大平健太 (名古屋大学) は遅れ微分方程式の新たな解析手法を紹介し、大平徹 (第1班) は動物の模様形成の数学理論について報告しました。金信行 (第1班) はANTとブロックチェーン技術の連関を論じ、鄭弯弯 (第1班) は感情分析における主観性の影響を低下するアプローチを提示しました。平田周 (第1班) はアニミズムに基づき都市の再定義を試み、大平英樹 (第5班) は「ハビトウス」を神経科学的視点から再考する試論を展開しました。

<令和6 (2024) 年度学術知共創プログラム・研究フォーラム>

2024年12月13日、中村靖子が令和6 (2024) 年度学術知共創プログラム・研究フォーラムにて報告しました。本フォーラムでは、各研究テーマのここまでの成果、特に社会的課題への応答の実績について、社会に向けて発信することを目的としており、開催時点で研究が遂行中であった8研究テーマの研究代表者より発表が行われました。

<生成AIチャットアプリ“Aivis”の開発—多人数による生成空間の共有— (南谷奉良) >

南谷奉良 (第3班) の論文「生成AIチャットアプリ“Aivis”の開発—多人数による生成空間の共有—」が、医学系の学術誌『Medical Imaging Technology』に掲載されました。本論文では、南谷とシステムエンジニアの佐次田哲と共同開発した教育用匿名チャットアプリ“Outis”および生成AI機能を加えた“Aivis”の開発経緯と具体的な運用事例が紹介されています。とくに、英語教育および文学研究の観点から、これらのシステムがいかに活用されているかについて詳述されています。

<Amplitude enhancements through rewiring of a non-autonomous delay system (大平健太・大平徹・大平英樹) >

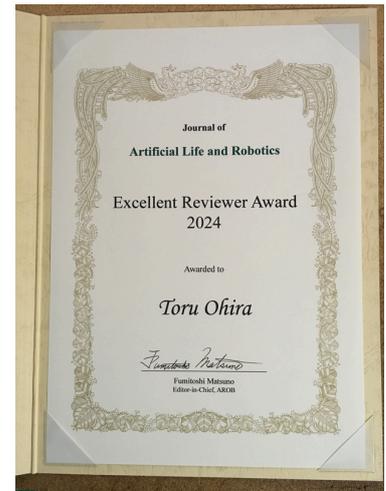
大平健太 (名古屋大学)・大平徹 (第1班)・大平英樹 (第5班) の論文「Amplitude enhancements through rewiring of a non-autonomous delay system」が学術誌『Chaos』に掲載され、また4月号の重要論文「FastTrack」の一つに選ばれました。

「自然や生命現象には様々な振動現象が見られます。特に生体においても色々なリズムが存在します。これらはどのように生み出されるのでしょうか。例えば心臓の鼓動のリズムを生み出す組織は数千から一万個の細胞から構成されています。一般的には微小振動を持つ細胞や素子 (ユニット) が、それなりの数集まることで、相応の振動振幅を持つ信号が生み出されると考えられます。しかし、この研究では、個々には微弱な振動活動をするユニットであっても、相互作用に遅れを持つような場合を考えると、1億倍にも振動振幅が増幅されることを示しました。実験によるこの繋ぎ換え相互作用による巨大振幅増大の現象が確認できるか、さらに信号情報処理技術への応用があるか、などの探求は今後の課題です。」 URL: <https://www.nagoya-u.ac.jp/researchinfo/result/2025/04/post-813.html>

< 「日本心理学会第18回国際賞奨励賞」(山本哲也) >

< 「Excellent Reviewer Award」(大平徹) >

山本 哲也	徳島大学	業績リスト	業績紹介
<p>授賞理由: 山本 哲也氏は、臨床心理学的問題意識に立脚して、脳機能イメージング計測手法、自然言語処理等の情報学的手法、大規模オンライン質問紙調査などの多彩な方法を用い、人々の心理的適応やメンタルヘルスに関する論文を精力的に発表してきた。なかでもCOVID-19 禍におけるメンタルヘルスに関する研究では、タイムリーに国際研究グループを組織して11本の論文を国際学術雑誌に発表した。そのうち山本氏が筆頭著者の論文は、我が国のCOVID-19 禍の基礎的データと位置づけられている。また、山本氏はそれ以外にも心の適応やメンタルヘルスに関する種々の研究テーマで、米国、ドイツ、イタリア、メキシコなど様々な海外の研究機関と協働して多くの研究成果をあげ、国際会議における招待講演もおこなっている。以上の研究業績と国際的ネットワーク構築の実績は、国際賞奨励賞にふさわしい。</p>			



< 2025.3.12-14 国際シンポジウム「Anthropocene Calling II: Humans, Animals, Machines」 >

2025年3月12日から3月14日にかけて、イタリアのベルガモ大学の連携施設アステイーノ修道院 (Monastero di Astino) にて、国際シンポジウム「Anthropocene Calling II: Humans, Animals, Machines」を開催しました。本シンポジウムは「人新世」を主題にすえ、人間中心主義がもたらす諸問題について多角的な検討を行うことを目的とし、

2023年度にローマ大学トル・ヴェルガータ校で行われた国際会議の第2弾として開催されたものです。第二回となる今回は「人間、動物、機械」と主題を明確にし、第1班、第3班のメンバーも参加し、海外からは、ベルガモ大学、トル・ヴェルガータ

大学、ザンクト・ガレン大学、トリノ大学など、多方面から多分野の参加者が集い、いっそう領域横断的に議論を交わしました。

イタリア側から6名、日本側から13名(うちメンバー9名)が参加しました。また、ゲストスピーカーとして岡田温司(京都大学名誉教授・京都精華大学)が登壇しました。



< 2025.3.28-29 第6回研究集会 >

本プロジェクトでは、毎年度2回ずつ、ほぼ全てのメンバーが参加する全体研究集会を開催し、研究の進捗を報告し合い、研究知見の交換の場としていますが、6回目となる全体集会(名古屋大学)では、外部講師による二つの講演を企画し、研究期間後半に向けての方向を定める場としました。主に4つのセッションを設け、1グループリーダーによる各班の研究の進捗報告、2「未来への物語」、3「ジェンダー&セクシュアリティー通念・多様性・越境」、4「古代からの物語」というプログラムとなりました。

2「未来への物語」は、学術知共創プログラム2024年度採択プロジェクトの代表大澤博隆(慶應義塾大学)による講演「SFセンターと想像学」、4「古代からの物語」は人類考古学の小茄子川歩(京都大学)による講演「人類史におけるもう一つの「文明」、そして「バッファ」について」を踏まえ、それらに対する本プロジェクトメンバーからの応答、そして全体討論、という構成です。前者は主にSFという未来の物語をいかに紡ぐかが主題となり、後者では、インダス文明ではいかに都市が形成されたかという、過去に対する物語の構築が主題となりました。3「ジェンダー&セクシュアリティー通念・多様性・越境」では第4班のメンバーからそれぞれ問題提起がなされ、第4班が企画する叢書第4巻と国際研究集会に向けての方向性が具体的に定まりました。今回の集会は、メンバー相互、研究班相互のみならず、他プロジェクトとの連携をも見据えた有意義なものとなりました。

AAAプロジェクト第6回研究集会
2025.3.28(全)-29(土)

会場: 名古屋大学東山キャンパス 文学部本館 大会議室110号室

2025.3.28(金)

セッション1: オープニング (司会: 中村謙子, 6名)
13:00-13:30 前期参加者の紹介
13:30-14:30 3日からの報告
14:30-15:30 前期参加者発表の連絡

14:30-15:00 昼食

セッション2: 未来への物語
15:00-15:40 講演: SFセンターと想像学 大澤博隆(慶應大)
15:40-16:00 コメンテーター: 大澤博隆(慶應大)
16:00-16:20 コメンテーター: 小澤麗香(名大)
16:20-17:30 討論

18:30-21:00 情報交換会&研究交流
2025.3.29(土)

セッション3: ジェンダー&セクシュアリティー通念・多様性・越境 (司会: 奥山朋樹, 6名)
10:00-10:30 立本厚介(京大)
10:30-10:40 ポップアップ: マリオン・マルセル(明学大)
10:40-11:00 祝詞朗読(NAGU-OE)
11:00-12:00 討論

12:00-13:30 ランチミーティング

セッション4: 古代からの物語
13:30-14:10 講演: 人類史におけるもう一つの「文明」、そして「バッファ」について 小茄子川歩(京大)
14:10-14:30 コメンテーター: 宮崎隆一(名大)
14:30-14:50 コメンテーター: 西元麗香(名大)
14:50-16:00 討論

セッション5: クロージング (司会: 中村謙子, 6名)
記念撮影: 次回に向けての連絡、その後のイベントなどの連絡
問い合わせ: 人文知共創センター zhen@nagoya-u.jp <https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/aaa/>

<令和6年度名古屋大学人文学研究科研究プロジェクト「連続ワークショップ：データに基づいた統計・機械学習モデルの基礎」>

演習×講演

連続ワークショップ：データに基づいた統計・機械学習モデルの基礎と応用 (ハイブリッド開催・動画配信)

専門知識がなくても大丈夫です！
まずは最初の一歩を始めましょう！

第1回
機械学習入門と解析ツール

2024
6/5(水) 14:45~16:15
文学部講義棟128室

主な内容

- 関連用語 (統計学、人工知能、パターン認識...)
- 主なプロセス
- 解析ツール・セットアップ

初心者歓迎！お気軽にご参加ください

- 対象：文芸部・人文学研究科の学生、教員
- 参加費無料
- 事前申し込み・事前登録：不要
- 対面に参加される場合は、ご自分のPC(Windows/Mac)をご持参ください。
- Zoomリンク、配布資料、配信動画(後日など)、QRコードURLにてご確認ください。

お問い合わせ先：人文知識センター sheng@nagoya-u.jp <https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/aaa>

連続ワークショップ：データに基づいた統計・機械学習モデルの基礎と応用 (ハイブリッド開催・動画配信)

歴史学における探索的データ分析の紹介

9/18(水) 16:00~17:30
文学部講義棟129室

大知聖子 准教授 名城大学

歴史学がデータ分析 (DA) と統計学モデルに基づいてデータ分析、構築する場面に、データ駆動型アプローチが活用される。データ分析の活用は、歴史学において重要な役割を果たしている。本セッションでは、探索的データ分析 (EDA) の基礎から応用まで、歴史学の文脈でデータ分析の活用方法を学ぶ。EDAの基礎から応用まで、歴史学の文脈でデータ分析の活用方法を学ぶ。EDAの基礎から応用まで、歴史学の文脈でデータ分析の活用方法を学ぶ。

初心者歓迎！お気軽にご参加ください

- 対象：文芸部・人文学研究科の学生、教員
- 参加費無料
- 事前申し込み・事前登録：不要
- 対面に参加される場合は、ご自分のPC(Windows/Mac)をご持参ください。
- Zoomリンク、配布資料、配信動画(後日など)、QRコードURLにてご確認ください。

お問い合わせ先：人文知識センター sheng@nagoya-u.jp <https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/aaa>

連続ワークショップ：データに基づいた統計・機械学習モデルの基礎と応用 (ハイブリッド開催・動画配信)

第5回
データ構造の自律的な学習：教師なしの方法

14:45~16:15
文学部講義棟1AB室
2024
10/30(水)

主な内容

- 共起ネットワーク
- 階層的クラスタ分析
- 主成分分析、t-SNE
- 非凸性判別

初心者歓迎！お気軽にご参加ください

- 対象：文芸部・人文学研究科の学生、教員
- 参加費無料
- 事前申し込み・事前登録：不要
- 対面に参加される場合は、ご自分のPC(Windows/Mac)をご持参ください。
- Zoomリンク、配布資料、配信動画(後日など)、QRコードURLにてご確認ください。

お問い合わせ先：人文知識センター sheng@nagoya-u.jp <https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/aaa>

Anthropocene: Actors and Agency in Humanity, Society, and Nature (人間・社会・自然の未来を築く)「人文学」における人間の存在を問う

AAAプロジェクト第5回研究集会
2024.8.19(月)・20(火)
会場：名古屋大学東山キャンパス文学部本館・大会議室110号室

2024.8.19(月)

セッション1: AAA書籍第1巻「ことば×データサイエンス」(両会: 柳澤直、名大)
13:00-13:20 鈴木 龍雄 (名大) 14:00-14:20 山崎 信也 (名大)
13:20-13:40 伊藤 隆太 (東海大) 14:20-14:40 新野 隆平 (東海大)
13:40-14:00 伊藤 隆太 (東海大) 14:40-15:00 伊藤 隆太 (東海大)

セッション2: 書籍第2巻「生成AIとポスト」(両会: 岡田直樹、京大)
15:00-15:20 岡田直樹 (京大) 15:40-15:50 岡田直樹 (京大)
15:20-15:40 岡田直樹 (京大) 15:50-16:00 岡田直樹 (京大)

セッション3: 書籍第3巻「生成AIとポスト」(両会: 岡田直樹、京大)
15:00-15:20 岡田直樹 (京大) 15:40-15:50 岡田直樹 (京大)
15:20-15:40 岡田直樹 (京大) 15:50-16:00 岡田直樹 (京大)

セッション4: センシティブ (両会: 山田隆平、京大)
13:30-13:50 山田隆平 (京大) 14:30-14:50 山田隆平 (京大)
13:50-14:10 山田隆平 (京大) 14:30-14:50 山田隆平 (京大)

セッション5: 書籍第4巻「生成AIとポスト」(両会: 岡田直樹、京大)
14:10-14:30 岡田直樹 (京大) 14:50-15:00 岡田直樹 (京大)

セッション6: 書籍第5巻「生成AIとポスト」(両会: 岡田直樹、京大)
15:00-15:20 岡田直樹 (京大) 15:40-15:50 岡田直樹 (京大)

セッション7: 書籍第6巻「生成AIとポスト」(両会: 岡田直樹、京大)
15:20-15:40 岡田直樹 (京大) 15:40-15:50 岡田直樹 (京大)

セッション8: 書籍第7巻「生成AIとポスト」(両会: 岡田直樹、京大)
15:40-16:00 岡田直樹 (京大) 16:00-16:20 岡田直樹 (京大)

セッション9: 書籍第8巻「生成AIとポスト」(両会: 岡田直樹、京大)
16:20-16:40 岡田直樹 (京大) 16:40-17:00 岡田直樹 (京大)

名古屋大学人文学研究科プロジェクト「連続ワークショップ：データに基づいた統計・機械学習モデルの基礎と応用」共催
問い合わせ先：人文知識センター sheng@nagoya-u.jp <https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/aaa>

連続ワークショップ：データに基づいた統計・機械学習モデルの基礎と応用 (ハイブリッド開催・動画配信)

第3回
データ集計と多次元データの記述

2024
7/24(水) 14:45~16:15
文学部講義棟1AB室

主な内容

- Pythonでのデータ収集
- MTMineRでのデータ収集
- データの記述と可視化

初心者歓迎！お気軽にご参加ください

- 対象：文芸部・人文学研究科の学生、教員
- 参加費無料
- 事前申し込み・事前登録：不要
- 対面に参加される場合は、ご自分のPC(Windows/Mac)をご持参ください。
- Zoomリンク、配布資料、配信動画(後日など)、QRコードURLにてご確認ください。

お問い合わせ先：人文知識センター sheng@nagoya-u.jp <https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/aaa>

連続ワークショップ：データに基づいた統計・機械学習モデルの基礎と応用 (ハイブリッド開催・動画配信)

自由会話音声バイオマーカーとしての研究・技術の紹介
入部百合絵 准教授 愛知医科大学

人や動物が発する音声も音響学的な観点から、音声バイオマーカーとしての研究が盛んである。人は発音の音だけでなく、相手の様子や感情のわずかな違いを感じ取ることが出来る。音声を分析することで、コンピュータでもそのような違いを可視化し、計測することが出来た。音響学的な観点から、音声バイオマーカーとしての研究が盛んである。人や動物が発する音声も音響学的な観点から、音声バイオマーカーとしての研究が盛んである。

全学教育棟北棟211室
11/27(水) 14:45~16:15

初心者歓迎！お気軽にご参加ください

- 対象：文芸部・人文学研究科の学生、教員
- 参加費無料
- 事前申し込み・事前登録：不要
- 対面に参加される場合は、ご自分のPC(Windows/Mac)をご持参ください。
- Zoomリンク、配布資料、配信動画(後日など)、QRコードURLにてご確認ください。

お問い合わせ先：人文知識センター sheng@nagoya-u.jp <https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/aaa>

連続ワークショップ：データに基づいた統計・機械学習モデルの基礎と応用 (ハイブリッド開催・動画配信)

社会科学におけるデータサイエンスの活用
一統計調査データから社会問題を読み解く

社会科学におけるデータサイエンスの活用。統計調査データから社会問題を読み解く。社会科学におけるデータサイエンスの活用。統計調査データから社会問題を読み解く。

2/12(水)

郷 鐘軍 教授
名古屋大学大学院文学研究科 社会文化学専攻 社会文化学教授
社会文化学センター長

13:00-14:30 第1部 講演 (オンライン開催)
15:00-18:00 第2部 演習 (講義室128号オンライン)
15:00-16:25 演習1 に来場での演習と自律的な学習
16:25-18:00 演習2 オンラインのみで実施する

お気軽に参加ください

- 対象：データサイエンスに関心のある方、初心者の方も大歓迎です
- 参加費無料・入退室自由
- 事前申し込み・事前登録：不要
- 対面に参加される場合は、ご自分のPC(Windows/Mac)をご持参ください。
- Zoomリンク、配布資料、配信動画(後日など)、QRコードURLにてご確認ください。

お問い合わせ先：人文知識センター sheng@nagoya-u.jp <https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/aaa>

<AAA叢書第一巻『ことば×データサイエンス』2025年3月27日出版>

中村靖子
代表

ことば×データサイエンス

AAA叢書

「叢書刊行にむけて」
人間のコミュニケーションは〈自然〉なものではなく、技術や道具、記号体系に基づく。ヴィレム・フルッサーは、情報を保存・継承する人間の営みは〈自然〉に反すると述べる。このような非自然的側面の理解には人文学的視点が必要とされる。

2022年度採択のAAAプロジェクトは、こうした視点から人間・社会・自然の関係を再考し、危機に直面する現代における新たな人間像の構築を目指して始動した。言語や自然観を軸に議論を展開しつつ、叢書はその成果を発信する媒体でもある。ブルーノ・ラトゥールのアクターネットワーク理論やブルデューのハビトゥス概念に学びながら、人間と非人間との新たな関係性を模索する本プロジェクトは、現代社会における複雑なネットワークをいったん解きほぐし、〈他者や自然との柔らかな均衡〉を描出することを目的としている。

中村靖子代表



人文学×データサイエンス



『フロイト「夢判断」』2024年4月出版
立木康介（著）



『ただ生きるアナキズム』2024年5月28日出版
森元斎（著）



『美学入門』2025年2月20日出版
ベンス・ナナイ（著）、武田宙也（翻訳）



『近代イギリスの動物史』2025年3月5日出版
伊東剛史（著）

<令和6年度「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」学術知共創プログラム 中間評価>

本研究課題は、令和6年度中間評価において、総合評価「A⁻」をいただきました。

【評価コメント（抜粋）】

本研究は5つの主要テーマにおいて成果を挙げ、チーム間の連携も良好である。国際的な議論も活発であり、研究の進展は高く評価できる。エージェント理論やテキストマイニングなど社会科学との連携を強化しつつ、AI研究としても十分な水準を維持し、人文・社会科学の特性を活かすことが望まれる。一方で、テーマの多様性ゆえに全体の統一感に課題があり、社会的貢献の具体性が今後の課題である。

本プロジェクトでは、今後も分野横断的な連携と学術的な深度を両立させながら、研究成果の発信と社会的課題への貢献に努めてまいります。

<共催企画「終わらない読書会—22世紀の人文学にむけて」>

共催：学術知共創プログラム先導的人文学・社会科学研究「人間・社会・自然の来歴と未来—「人新世」における人間性の根本を問う」

終わらない読書会 —22世紀の人文学に向けて

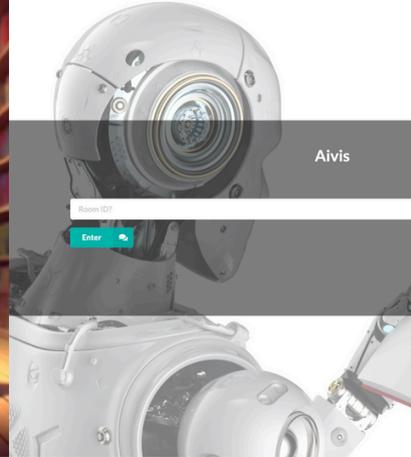
【読書会概要】

- 参加費無料・オンライン読書会 (@Zoom)
- 参加方法：Google Formによる事前登録 <https://forms.gle/WBo5DY4M4XnDZNA6>
- 運営：南谷奉良(京都大学)・小林広直(東洋学園大学)・平繁佳織(中央大学)
- 協力：佐次田哲(システムエンジニア)
- 共催：「人間・社会・自然の来歴と未来—「人新世」における人間性の根本を問う」(JPJS00122674991)

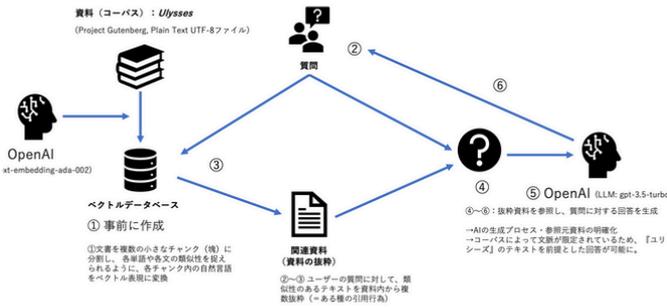


【読書会構成】

- 第1部 AIが読む文学
GPT3モデルとDALL・E2を組み込んで独自に開発したチャットアプリ「AIVIS」を使用して、参加者共同で対象作品に関するテキスト生成や画像生成を行い、その出力結果を批判的に検討します。
- 第2部 人間が読む文学
登壇講師による「ヒト・動物・モノ・機械・自然」を主題にした文学作品を説明します。登壇講師と対象テキストは毎回変わります。
- 第3部 市民が読む文学
参加者による登壇講師への質疑とオープンディスカッションを行います。質疑は「AIVIS」及びZoomのチャットを利用します。



対話型チャットボードAIVISの新機能「コーパス」について



【企画趣旨】

2019年から2022年にかけて開催した『2022年の『ユリシーズ』—スティーヴンズの読書会』の後継企画として、「人工知能×人文知×市民知」をコンセプトとした読書会「終わらない読書会—22世紀の人文学に向けて」を開催しています。運営は南谷奉良(京都大学)・小林広直(東洋学園大学)・平繁佳織(中央大学)によります。読書会のタイトルは前身企画の終了に際して寄せられた「終わらないでほしい」という参加者の声と、長期的なスパンで人文学の可能性を展開するヴィジョンを盛り込んでいます。このため終了時期を定めず実施致します。

2023年から2026年にかけては、学術知共創プログラム先導的人文学・社会科学研究「人間・社会・自然の来歴と未来—「人新世」における人間性の根本を問う」(JPJS00122674991)との共催です。読書会はAIが読む文学・人間が読む文学・市民が読む文学の3部構成で、それぞれが生成する知を批判的に重ね合わせながら、毎回の登壇講師が選定する「ヒト・動物・モノ・機械・モノ・自然」をめぐる、その境界が揺らぐ主題をもつ文学作品を読解していきます。読書会内では、システムエンジニアの佐次田哲と南谷が共同開発した匿名チャットボード“Outis”に生成AI機能(テキスト生成と画像生成)やコーパス機能を加えた“AIVIS”を導入し、人間とノンヒューマンの協力的関係を模索しています。

URL: <https://a3hsn.org/reading/>

<テキストマイニングツールMTMineR>

MTMineR (Multilingual Text Miner with R; エム・ティ・マイナー) は、元同志社大学教授金明哲により2000年から開発し続けてきたテキスト型データをさまざまな方法で構造化し、統計分析や機械学習を行う高機能のテキストマイニングおよびテキストアナリティクスツールである。テキスト型データを構造化して集計し、Rを用いて統計的に分析する。これにより、文学作品・アンケートの自由記述・新聞記事などさまざまなテキストを処理し、データを集計することができます。テキストの統計的解析を勉強する方々のため、無償で本ツールを公開します。ただし、著作権を放棄することを意味するものではありません。

このソフトはテキストデータを前処理し、集計したうえで、主成分分析、クラスター分析、ワードクラウド、トピックモデルなどの分析法のみならず、サポートベクターマシンやランダムフォレストにいたる最新の機械学習アルゴリズムを実装しています。これにより、統計学などの専門的知識がなくても、さまざまな分析法を簡便に用いることを実現します。

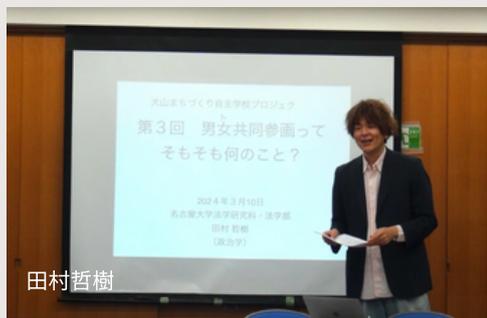
URL: <https://a3hsn.org/nlptools/>

MTMineR

PHOTOWALL



森元 斎



田村 哲樹



大平 英樹



池野 絢子



武田 宙也



和泉 悠



立花 幸司



伊東 剛史



池田 慎之介



立木 康介



金沢21世紀美術館共同シンポ



ロボット視察会



TOIC NAGOYA

PHOTOWALL



創発知研究会



ロボット視察会



金沢21世紀美術館共同シンポ懇親会



大平徹



創発知研究会



ロボット視察会



ベルガモ会議



ベルガモ会議懇親会



第6回全体集会



第6回全体集会



第6回全体集会



ベルガモ会議



第6回全体集会懇親会



第6回全体集会

THANK YOU

本パンフレットの作成にあたり、多くの先生方のご協力をいただきました。次年度もさらに魅力的な活動をお届けできるよう努めてまいります。
引き続きご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



名古屋大学大学院人文学研究科附属
人文知共創センター
Humanity Center for Anthropogenic Actors and Agency

〒464-8601 名古屋市千種区不老町

TEL：052-789-5958

<https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/aaa/> <https://a3hsn.org/>

編集・レイアウト：鄭弯弯

表紙：Roberto TERROSI (University of Rome Tor Vergata)

協力：綾塚達郎 (名大サイエンスコミュニケーター)

発行年月日：2025年5月20日